

布で描いたアプリケ芸術

# 宮脇綾子の世界展



あ

伊勢えび[1982年]豊田市美術館蔵

平成30年3月1日[木]—4月15日[日] ※会期中無休

開館時間：午前9時30分～午後5時30分（入館は午後5時まで）

入館料：一般1,000円（4枚セット券3,000円）／大学生800円／高校生500円／中学生以下無料

主催：公益財団法人岡田文化財団パラミタミュージアム

後援：中日新聞社、朝日新聞社、読売新聞社、NHK津放送局、三重テレビ放送

協力：豊田市美術館 企画制作：NHKプラネット近畿、創造教育センター

記念講演会

3月11日(日) 午後2時～

講師：村田眞宏氏(豊田市美術館 館長)

paramitamuseum

公益財団法人岡田文化財団パラミタミュージアム

〒510-1245 三重県三重郡菟野町大羽根園松ヶ枝町21-6 Tel.059-391-1088 Fax.059-391-1077 E-mail office@paramitamuseum.com  
http://www.paramitamuseum.com Facebook www.facebook.com/paramitamuseum Twitter @paramita\_muse

パラミタミュージアム 検索



布で描いたアプrikエ芸術

# 宮脇綾子 の世界展



アプrikエ作家宮脇綾子(みやわき・あやこ/1905-1995)は戦争が終わった40歳の時、「何か自分でできることを」と思いついたのが身近にあった古裂を材料にしたアプrikエでした。そして綾子は身の回りの生活を題材にアプrikエを作り始めます。作品のモデルは庭の花、野菜、魚など身近なものを「あ」と驚きの心で見つめ美しいと感じたものばかりです。

「こんな布がと思うものが素晴らしく、生きていくのがたまらなく楽しいのです。心して見れば道端の草花でも、台所に転がっている野菜、枯れた花、一匹のさんまでも美しい。その感動を私は布へ持って行っただけなのです。道端の花がモデルであり、自然に学び、物をよく見ること、それが創作を生むきっかけになるのです」と言っています。

その創作の支えとなったのが、作家(洋画家)として妻の作品を誰より理解していた夫・宮脇晴でした。綾子の作品は、一枚の静物画のように、自由な開放感にあふれ、立体感が有ります。そこには洋画家である夫の影響が大きく見てとれます。

アプrikエ作品はただの布の貼り合わせではなく、ユーモアがあり、どれも温かさに満ち、今もデザイン性に優れ、躍動感があふれています。まさに絵具を古裂に置き換えた「布切れの芸術」なのです。

本展では、宮脇綾子の初期から晩年に至る代表作を中心に展示するほか、人柄がしのばれる遺愛品、創作風景なども交えて全容にせまります。また同時に当館所蔵の宮脇綾子作品を特別公開いたします。この機会に合わせてお楽しみください。



鴨(背)[1953年]豊田市美術館蔵



貞子さん[1954年]個人蔵



割った北海道かぼちゃ[1978年]パラミタミュージアム蔵



かぶの花[1976年]豊田市美術館蔵



吊った干しえび[1983年]豊田市美術館蔵



鶴亀模様の鯛[1979年]豊田市美術館蔵



鮭[制作年不詳]個人蔵

## 次回展示のお知らせ

会期 平成30年4月20日(金)～6月3日(日) **ヴラマンク展** — 絵画と言葉で紡ぐ人生 —

モーリス・ド・ヴラマンク(1876-1958)はフォーヴィスムの画家として名を馳せましたが、その後セザンヌの芸術に回帰し、落ち着いた色彩で独自の表現を確立しました。本展では絵画約80点とヴラマンクの言葉によりその画業をたどります。

■お車をご利用の場合/豊名阪「四日市I.C.」より国道477号(湯の山街道)を湯の山の方面へ約6.5km。 ■無料駐車場有り(普通車100台、大型バス駐車場)  
■電車をご利用の場合/近鉄「四日市駅」下車、近鉄湯の山線に乗り換え約25分、「大羽根園駅」下車、西へ300m。 ■全館バリアフリー、車椅子常備



公益財団法人岡田文化財団パラミタミュージアム 〒510-1245 三重県三重郡菟野町大羽根園松ヶ枝町21-6

Tel.059-391-1088 Fax.059-391-1077 E-mail office@paramitamuseum.com

http://www.paramitamuseum.com Facebook www.facebook.com/paramitamuseum Twitter @paramita\_muse